

---

## (社)日本水難救済会名誉総裁表彰式典を挙りました

---

(社)日本水難救済会では、5月21日(金)千代田区平河町の海運ビルにおいて「平成22年度名誉総裁表彰式典」を挙りました。

当会では、平成13年に、全国のボランティア救難所員の励みとするとともに、当会の活動を一般の方々に広く理解していただくため、名誉総裁表彰制度を設け、今年度も、名誉総裁にご就任いただいている高円宮憲仁親王妃久子殿下にご臨席を賜り、名誉総裁表彰式典を挙りました。

式典では、表彰状または感謝状が会長から伝達され、名誉総裁から受賞者に対し、名誉総裁盾(団体)または名誉総裁章(個人)が直接授与されました。

---



表彰審査委員長（日本水難救済会会長）挨拶



表彰状、名誉総裁盾等の授与



名誉総裁のおことば



国土交通大臣祝辞

受賞者の方々は次のとおりです。

## 平成22年度名誉総裁表彰受賞者 【海難救助功労 団体の部】

高知県水難救済会

宇佐救難所（所長 うえの 上野 ひろよし 浩功）



### 功労の概要

平成21年9月27日午前10時20分頃、高知県土佐市宇佐沖合で遊漁を終え帰港中の遊漁船「エピソード」から乗船者1名が海中転落したとの通報が所属マリーナになされ、同マリーナは直ちに118番通報を行った。これを受け海上保安庁は宇佐救難所に救助要請を行い、同救難所は、直ちに救助船に救難所員3名を乗船させ出動した。

救助船は付近海域の漂流ごみと潮目を重点的に搜索し、助けを求める微

かな声を聞きつけ、6時間以上救命胴衣を着用しないまま立ち泳ぎの状態  
で漂流し疲労困憊の海中転落者を発見、救助した。その後、同人は救急隊員  
に引き継がれ病院へ搬送、3日間入院後無事退院した。

本件海域は足摺岬から室戸岬に向う東北東の強い海流が流れている  
海域であるにもかかわらず、実際の発見海域は、転落位置から北北西  
へ数マイル離れた位置であり、沿岸海域の海潮流に熟知した地元漁民  
でなければなし得なかったものである。また、救命胴衣を着用しない  
まま頭部のみ海上に出した状態で極めて発見しづらい状況下、五感を  
研ぎ澄ませつつ要救助者の助けを求める微かな声を聞きつけて救助に  
至ったもので、操船者と捜索者とが連携した見事な救助作業であり、  
その功績は極めて高く評価されるものである。

## 平成22年度名誉総裁表彰受賞者

### 【洋上救急功労 団体の部】



長崎県五島中央病院  
(院長 かんだ てつろう 神田 哲郎)



#### 功労の概要

緊急に医師の加療を要する船舶上の傷病者に対する人命救助と船員福祉  
の向上を目的として昭和60年10月から開始された洋上救急事業に関して、協  
力医療機関として、これまで31件の洋上救急事案に対して52名の医師・看護  
師を派遣、巡視船や航空機等に同乗して出動し、傷病者36人に対して医療処  
置を行った。

## 平成22年度名誉総裁表彰受賞者

### 【事業功労（金品寄贈）団体の部】



SGホールディングス株式会社  
(代表取締役会長兼社長 くりわだ えいいち 栗和田 榮一)

#### 功労の概要

本会が行なう水難救済事業に関し、日頃からその重要性を深く認識され、  
青い羽根募金強調期間中、全国の社員が一斉に青い羽根を着用して業務

に従事するなど青い羽根募金活動に全社を挙げて取り組み、多年にわたり多額の寄附をされた。

このことは、ボランティアとして人命救助活動にあたる全国5万5千人の救難所員に対して何にも勝る強力な支えとなるものであり、もって我が国沿岸における海上の安全確保に大きく寄与したもので、本会の事業に極めて抜群の功労があった。

## 平成22年度名誉総裁表彰受賞者 【事業功労（金品寄贈）個人の部】

ジュン ペイジ （Mr. Jun Page）

（株式会社ランゲージハウス代表取締役社長）



### 功労の概要

本会の正会員であったペイジ グラハム ジョン氏は、日頃から水難救済事業の重要性を深く認識され、同氏の父君の遺産の一部を寄附していただく等多大なご支援をいただいていたところ、平成21年3月10日同氏のご逝去され、そのご子息の株式会社ランゲージハウス代表取締役社長 ジュン ペイジ氏が故人のご遺志を汲み、平成21年5月21日、本会に日本水難救済会の発展のためにと多額の寄附をされた。

このことは、ボランティアとして人命救助活動にあたる全国5万5千人の救難所員に対して何にも勝る強力な支えになるとともに、本会事業の発展に極めて多大な貢献をしたもので、極めて抜群の功労があった。

かわさき のりこ  
河崎 則子

### 功労の概要

平成20年11月1日、熊本県の八代海で遊漁中の夫を不慮の海難事故で亡くされたことから、水難救済事業の重要性を深く認識され、捜索救助活動等に役立てて欲しいとの強い思いから平成22年3月23日「青い羽根募金」に多額の寄附をされた。

このことは、ボランティアとして人命救助活動にあたる全国5万5千人の救難所員に対して何にも勝る強力な支えとなるものでありもって我が国沿岸における海上の安全確保に大きく寄与したもので、本会の事業に極めて抜群の功労があった。